

履修要項

履修上の注意点

1. 進級要件

各学年末において、下の表に示す進級要件修得単位数を修得していない場合、次の高学年次へ進級し、その課程を履修することができない（岐阜薬科大学学修規程内規・第10条）。

ただし、実習科目は、その開講されている年次において修得しなければならず、修得できていなければ進級することができない。

(両コース共通)

区 分	1年次	2年次	3年次	4年次
進級要件修得単位数	34単位以上	77.5単位以上	118単位以上	138単位以上
通計単位数	48単位以上	89.5単位以上	128単位以上	146単位以上

単位の計算方法

授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準によって計算する。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 一授業科目について講義、演習、実習のうち二以上の方法の併用により行う場合の単位の計算基準は、講義時間を2倍、演習時間を1.5倍、実習時間を等倍して、合計時間が30時間の授業をもって1単位とする。

成績評価

科目試験等、学修成果の評価等に関する具体的な基準は各科目の成績評価のページに示す。さらに、各科目の授業開始時に担当教員が学生に対して周知する。

科目の成績は、合格と不合格に分け、合格をさらに優・良及び可に区分する。(学則細則第3条)

●GPAの算定方法

優・良・可を、優(3点)、良(2点)、可(1点)と点数化し、

$GPA = \text{各科目の点数(単位数} \times \text{成績点)の合計} \div \text{通計単位数}$ とする。

実習、演習、体験学習、SGD (small group discussion)、PBL (problem based learning)、ロールプレイ、e-learning については全出席を原則とする。

2. 薬学共用試験と病院・薬局実習

5年次に開講される病院実習(2.5ヶ月)・薬局実習(2.5ヶ月)を履修することができるのは、薬学共用試験に合格した者のみである。

薬学共用試験は医療現場で実習を行うだけの能力に達しているかを確認するためのもので、知識を問

う CBT (computer based test) と技能・態度を評価する OSCE (objective structured clinical examination) の 2 種類があり、この両方に合格した者のみが医療現場での実務実習「病院・薬局実習」を履修することができる。

3. 卒業要件

卒業するためには、6 年以上在学し、基礎教育科目及び専門教育科目について次の表に定める単位を修得しなければならない。(岐阜薬科大学学則第 36 条)

(両コース共通)

基礎教育科目	専門教育科目	合計
32 単位	154 単位	186 単位

4. 薬学教育モデル・コア・カリキュラムと学修目標及び学修事項

卒業時までに学生が身に付けておくべき必須の能力(知識・技能・態度)を示した「薬学教育モデル・コア・カリキュラム(以下、「コア・カリキュラム」)」には、学修目標及び学修事項が記載されている。

学修目標とは、コア・カリキュラムの本体の部分に当たり、個別の知識や技能を概念的に把握し体系化して理解すること、知識や技能を活用して判断し行動することを示したものである。

学修事項とは、学生が学修目標に到達するために必要と考えられる知識や技能、行為等が記載されている。

シラバスでは授業科目ごとに学修目標及び学修事項を設定しており、対応する番号等を記載している。また、本学独自のアドバンストカリキュラムの学修事項については、各科目内に『▶』で示してある。

5. シラバスの見方

6 年間で開講される基礎教育科目及び専門教育科目は、次ページの履修課程表にまとめてある。科目ごとの授業のシラバスはオンライン上で公開されている。複数の教員・研究室が担当する科目の場合、「代表教員」と記載されている。

履修要項

履修上の注意点

1. 進級要件

各学年末において、下の表に示す進級要件修得単位数を修得していない場合、次の高学年次へ進級し、その課程を履修することができない（岐阜薬科大学学修規程内規・第10条）。

ただし、実習科目は、その開講されている年次において修得しなければならず、修得できていなければ進級することができない。

(両コース共通)

区 分	1年次	2年次	3年次	4年次
進級要件修得単位数	34単位以上	77.5単位以上	118単位以上	138単位以上
通計単位数	48単位以上	89.5単位以上	128単位以上	146単位以上

単位の計算方法

授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準によって計算する。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 一授業科目について講義、演習、実習のうち二以上の方法の併用により行う場合の単位の計算基準は、講義時間を2倍、演習時間を1.5倍、実習時間を等倍して、合計時間が30時間の授業をもって1単位とする。

成績評価

科目試験等、学修成果の評価等に関する具体的な基準は各科目の成績評価のページに示す。さらに、各科目の授業開始時に担当教員が学生に対して周知する。

科目の成績は、合格と不合格に分け、合格をさらに優・良及び可に区分する。(学則細則第3条)

●GPAの算定方法

優・良・可を、優(3点)、良(2点)、可(1点)と点数化し、

$GPA = \frac{\text{各科目の点数(単位数} \times \text{成績点)の合計}}{\text{通計単位数}}$ とする。

実習、演習、体験学習、SGD (small group discussion)、PBL (problem based learning)、ロールプレイ、e-learning については全出席を原則とする。

2. 薬学共用試験と病院・薬局実習

5年次に開講される病院実習(2.5ヶ月)・薬局実習(2.5ヶ月)を履修することができるのは、薬学共用試験に合格した者のみである。

薬学共用試験は医療現場で実習を行うだけの能力に達しているかを確認するためのもので、知識を問

う CBT (computer based test) と技能・態度を評価する OSCE (objective structured clinical examination) の 2 種類があり、この両方に合格した者のみが医療現場での実務実習「病院・薬局実習」を履修することができる。

3. 卒業要件

卒業するためには、6 年以上在学し、基礎教育科目及び専門教育科目について次の表に定める単位を修得しなければならない。(岐阜薬科大学学則第 36 条)

(両コース共通)

基礎教育科目	専門教育科目	合計
32 単位	154 単位	186 単位

4. 薬学教育モデル・コア・カリキュラムと学修目標及び学修事項

卒業時までには学生が身に付けておくべき必須の能力(知識・技能・態度)を示した「薬学教育モデル・コア・カリキュラム(以下、「コア・カリキュラム」)」には、学修目標及び学修事項が記載されている。

学修目標とは、コア・カリキュラムの本体の部分に当たり、個別の知識や技能を概念的に把握し体系化して理解すること、知識や技能を活用して判断し行動することを示したものである。

学修事項とは、学生が学修目標に到達するために必要と考えられる知識や技能、行為等が記載されている。

シラバスでは授業科目ごとに学修目標及び学修事項を設定しており、対応する番号等を記載している。また、本学独自のアドバンストカリキュラムの教育目標については、各科目内に『▶』で示してある。

コメントの追加 [彩五1]: 削除

コメントの追加 [彩五2]: 学修事項

5. シラバスの見方

6 年間で開講される基礎教育科目及び専門教育科目は、次ページの履修課程表にまとめてある。科目ごとの授業のシラバスはオンライン上で公開されている。複数の教員・研究室が担当する科目の場合、「代表教員」と記載されている。

履修要項

履修上の注意点

1. 進級要件

各学年末において、下の表に示す進級要件修得単位数を修得していない場合、次の高学年次へ進級し、その課程を履修することができない（岐阜薬科大学学修規程内規・第10条）。

ただし、実習科目は、その開講されている年次において修得しなければならず、修得できていなければ進級することができない。

（両コース共通）

区 分	1年次	2年次	3年次	4年次
進級要件修得単位数	34単位以上	77.5単位以上	118単位以上	138単位以上
通計単位数	48単位以上	89.5単位以上	128単位以上	146単位以上

単位の計算方法

授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準によって計算する。

- （1） 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- （2） 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
- （3） 一授業科目について講義、演習、実習のうち二以上の方法の併用により行う場合の単位の計算基準は、講義時間を2倍、演習時間を1.5倍、実習時間を等倍して、合計時間が30時間の授業をもって1単位とする。

成績評価

科目試験等、学修成果の評価等に関する具体的な基準は各科目の成績評価のページに示す。さらに、各科目の授業開始時に担当教員が学生に対して周知する。

科目の成績は、合格と不合格に分け、合格をさらに優・良及び可に区分する。（学則細則第3条）

●GPAの算定方法

優・良・可を、優（3点）、良（2点）、可（1点）と点数化し、

$GPA = \text{各科目の点数（単位数} \times \text{成績点）の合計} \div \text{通計単位数}$ とする。

実習、演習、体験学習、SGD (small group discussion)、PBL (problem based learning)、ロールプレイ、e-learning については全出席を原則とする。

2. 薬学共用試験と病院・薬局実習

5年次に開講される病院実習（2.5ヶ月）・薬局実習（2.5ヶ月）を履修することができるのは、薬学共用試験に合格した者のみである。

薬学共用試験は医療現場で実習を行うだけの能力に達しているかを確認するためのもので、知識を問

う CBT (computer based test) と技能・態度を評価する OSCE (objective structured clinical examination) の 2 種類があり、この両方に合格した者のみが医療現場での実務実習「病院・薬局実習」を履修することができる。

3. 卒業要件

卒業するためには、6 年以上在学し、基礎教育科目及び専門教育科目について次の表に定める単位を修得しなければならない。(岐阜薬科大学学則第 36 条)

(両コース共通)

基礎教育科目	専門教育科目	合計
32 単位	154 単位	186 単位

4. 薬学教育モデル・コア・カリキュラムと学修目標及び学修事項

卒業時まで学生が身に付けておくべき必須の能力(知識・技能・態度)を示した「薬学教育モデル・コア・カリキュラム(以下、「コア・カリキュラム」)」には、学修目標及び学修事項が記載されている。

学修目標とは、コア・カリキュラムの本体の部分に当たり、個別の知識や技能を概念的に把握し体系化して理解すること、知識や技能を活用して判断し行動することを示したものである。

学修事項とは、学生が学修目標に到達するために必要と考えられる知識や技能、行為等が記載されている。

シラバスでは授業科目ごとに学修目標及び学修事項を設定しており、対応する番号等を記載している。また、本学独自のアドバンストカリキュラムの教育目標については、各科目内に『▶』で示してある。

コメントの追加 [彩五1]: 削除

コメントの追加 [彩五2]: 学修事項

5. シラバスの見方

6 年間で開講される基礎教育科目及び専門教育科目は、次ページの履修課程表にまとめてある。科目ごとの授業のシラバスはオンライン上で公開されている。複数の教員・研究室が担当する科目の場合、「代表教員」と記載されている。

別表第1

基礎教育科目履修課程表

区分	授業科目		標準履修学年及び単位数				
			1回生		2回生		
			前期	後期	前期	後期	
基礎教育科目	自然科学系	一般化学	必修	2			
		数学	必修	2			
		物理学	選A	2			
		無機化学	必修	2			
		生物学	選A	2			
		統計学	必修		2		
		コンソーシアム科目Ⅰ	選C				2
	人文・社会科学系	コミュニケーション論	必修	2			
		生命倫理学	必修			2	
		法学	選B	2			
		経済学	選B	2			
		文学	選B	2			
		心理学	選B		2		
		哲学	選C			2	
		社会学	選C			2	
	コンソーシアム科目Ⅱ	選C				2	
	外国語	実用英語Ⅰ	必修	1			
		実用英語Ⅱ	必修		1		
		実用英語Ⅲ	必修			1	
		英語会話Ⅰ	必修	1			
		英語会話Ⅱ	必修		1		
	第二外国語	英語会話Ⅲ	必修			1	
		ドイツ語Ⅰ	選D	1			
		ドイツ語Ⅱ	選D		1		
		スペイン語Ⅰ	選D	1			
		スペイン語Ⅱ	選D		1		
	体育保健	中国語Ⅰ	選D	1			
中国語Ⅱ		選D		1			
健康・スポーツ実習Ⅰ		必修		2			
健康・スポーツ科学	選B		2				
健康・スポーツ実習Ⅱ	選C				2		
小計	講義	必修	10	4	4		
	講義	選択	13	7	4	4	
	実習	必修		2			
	実習	選択				2	
基礎教育科目の合計			23	13	8	6	

- 注1. 選Aの2科目のうち、高等学校で履修していない科目を、1科目選択すること。
 2. 選Bの5科目のうち、2科目選択すること。
 3. 選Cの5科目のうち、2科目選択すること。ただし、コンソーシアム科目を選択する場合は、ⅠまたはⅡのいずれかを履修すること。
 4. 選Dの6科目のうち、同一言語の科目を、2科目選択すること。

